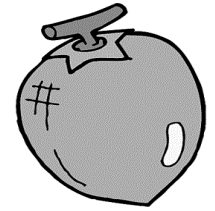


# 柿栽培技術情報（6月の管理）



令和3年5月25日  
宮城県大河原農業改良普及センター

## 《6月の管理のポイント》

4月の低温により凍霜害が発生しています。  
6月は、炭そ病と落葉病の重要防除時期です。

### 1 凍霜害を受けた樹の対策

#### （1）新梢管理

##### イ 被害が大きい場合

大きな被害を受けた樹では、主芽だけでなく副芽も枯死しています。休眠芽や不定芽が遅れて発芽し、新梢の本数がある程度確保できる場合がありますので、今後の経過に気を付けましょう。

##### ロ 被害が軽い場合

残った芽や副芽が発芽して新梢が混み合う場合がありますので、枝の上下から発生した新梢を中心に芽かきを行います。

なお、残した新梢は、次の年の結果母枝に育成できます。



凍霜害を受けたかき樹 5月中旬の様子

#### （2）病虫害防除

凍霜害を受けた樹は病虫害の被害を受けやすくなりますので、次の年の収穫に向けて防除は確実に実施しましょう。

### 2 6月の栽培管理（凍霜害を受けなかった場合）

#### （1）授粉

かきは虫媒花であり、主な訪花昆虫はミツバチです。  
開花期間中は、訪花昆虫に影響の少ない農薬を使用します。

#### （2）早期落果

- ・ かきは開花後の6月に生理落果が多くなります。
- ・ 落果の主な要因は、受精不良と栄養条件の偏りです。
- ・ 長雨の年は落果が多くなるので、生理落果が終わるまで摘果は控えます。

#### （3）芽かき

- ・ 骨格となる枝の直上に発生した徒長枝や、枝が伸びる方向に逆行する徒長枝は、早めに除去します。
- ・ 大きな切り口に発生した徒長枝は、切り口に近いものを数本残して整理し、切り口のゆ合を促進します。
- ・ 弱い徒長枝は、次の年の結果母枝に育成することもできます。

### 3 病虫害防除

#### (1) 炭そ病

新梢の発病を徹底して防ぐことが重要です。樹形が乱れても病斑枝の切除を徹底します。

##### イ 発生生態

- ・病原菌は枝の病斑の中で、菌糸の状態越冬しています。
- ・3月下旬頃からの降雨で病斑の表面がぬれると孢子をつくり、第一次伝染源となります。
- ・孢子は雨水で伝搬され、新しい組織に侵入します。7～10日の潜伏期間を経て、降雨があると新しい病斑上に孢子をつくり、第二次伝染源となって被害が拡大します。
- ・5月～6月にかけて降雨が多いときは、新梢や幼果の発病が多くなります。
- ・8月に高温・乾燥期間が続くと一時発生が少なくなりますが、気温が下がる8月下旬以降に降雨が続くと再発し、果実の発病が激しくなります。



炭そ病の徒長枝病斑

##### ロ 防除のポイント

###### ■ 耕種的対策

被害枝や被害果は切除して、園地外へ処分します。

###### ■ 薬剤防除

重点防除時期は6月中旬～7月中旬、8月下旬～9月下旬です。炭そ病菌は雨水で感染拡大しますので、週間天気予報に注意し、降雨前に薬剤防除を実施します。また、散布後1～2日程度は降雨のない日に防除すると効果が高くなります。

#### (2) 円星落葉病

6月の防除が大切です。

##### イ 発生生態

- ・病原菌は、落葉の病斑内部で越冬しています。
- ・4月以降になると子のう殻をつくり、その中にできた子のう孢子は風雨により飛散します。
- ・感染時期は、5月中旬～7月上旬です。
- ・感染後2～4か月の潜伏期間を経て、9月上旬頃から発病をはじめ、9月中旬～下旬にかけて急激に発病します。
- ・生育期の病斑上では孢子ができないので、二次感染はありません。

##### ロ 防除のポイント

###### ■ 落葉処理

被害落葉は集めて土中に埋めるなど、適切に処分します。

###### ■ 薬剤防除

感染時期の5月中旬～7月上旬に防除を実施します。特に6月は重点防除時期です。

発病後は、防除効果が劣りますので、適期に防除しましょう。



円星落葉病の秋の病斑

### (3) カキノヘタムシガ

#### イ 生態

- ・ 年2回の発生です。
- ・ 粗皮の下に幼虫がまゆをつくって越冬します。
- ・ 越冬世代成虫は6月頃に出現し、芽、枝、葉、果実などいたるところに産卵します。
- ・ 第1世代幼虫は芽から果実を加害し、8月頃に成虫が出現して、産卵します。
- ・ ふ化した第2世代幼虫は芽から果実を食害した後に、9月頃から粗皮下などに移動して越冬します。
- ・ 被害果は黄褐色となり、へたを残して落下します。樹上に残ったへたには小さな穴と虫糞が見られます。また、果実が少ない場合は、枝に食入し、褐色の虫糞を排出しながら樹皮下の形成層部分を食害します。

#### ロ 防除のポイント

- ・ 薬剤防除は成虫発生期の6月と8月に実施します。

表1 6月のかきの病害虫防除事例

令和3年5月13日現在

散布時期	対象病害虫	薬剤名	作用機構分類	希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数
開花前 5月下～ 6月上旬	炭そ病 落葉病	デランフロアブル	FRAC: M09	2,000倍	収穫90日 前まで	5回以内
落花直後 6月中旬	炭そ病 落葉病	ジマンダイセン水和剤	FRAC: M03	400倍 ～800倍	収穫45日 前まで	2回以内
	アザミウマ類 カキノヘタムシガ	モスピラン顆粒水溶剤	IRAC: 4A	2,000倍 ～4,000倍	収穫前日 まで	3回以内

#### ※ 農薬使用上の注意

- ・ 使用回数はその農薬の使用回数を示していますので、農薬を使用する際には、その剤の使用回数と含有する成分ごとの使用回数に注意してください。
- ・ 農薬散布を行う場合は、事前に最新情報で農薬登録を確認の上、使用してください。また、農薬使用の際には飛散防止対策を講じてください。